

## プログラム概要

【1 日目：12 月 5 日（土）】

9:00 開会（8:45 開場）

9:00～9:20 開会セレモニー

9:40～11:10 個別発表（9:30 開場）

13:30～14:30 全体セッション1（13:20 開場）

「コロナ禍と有機農業：食、農、暮らし、社会を変える好機として」

座長：谷口 吉光（秋田県立大学）、澤登 早苗（恵泉女学園大学）

報告：

「コロナ禍で見直される「農」の力」 小口 広太（千葉商科大学）

「関係性を紡ぎ直す有機農業：コロナ禍が助長した分断と生きづらさの緩和に向けて」

西出 綾（恵泉女学園大学大学院）

「食アクセスの格差と有機農業：関係性とともにある食と農をすべての人が享受するために、有機農業にできること」 山本 奈美（京都大学大学院／耕し歌ふあーむ）

「「ニューノーマル」時代は農的暮らしへの回帰：日本小農の歩みとしての有機農業」

飯塚 里恵子（千葉農村地域文化研究所）

「ポストコロナの方向性として持続可能な本来農業への転換：小農・家族農業・アグロエコロジーに注目して」 松平 尚也（京都大学大学院／耕し歌ふあーむ）

「他の選択肢もある」という現実の把握とその提示から」 鶴 理恵子（専修大学）

「ウイルスに対応する有機農業と健康にかかわる研究の必要性」

陽 捷行（北里大学名誉教授）

「食と農のあるべき姿を示す有機農業」 古沢 広祐（國學院大學研究開発推進機構）

「循環型有機農業の普及による日本農業の再生を」 稲葉 光國（NPO 法人民間稲作研究所）

15:00～16:20 地域セッション（14:50 開場）

「原子力災害と有機農業」

座長：林 薫平（福島大学）

報告：荒井 義光（福島県農業総合センター有機農業推進室）

農業者の証言

1) 浜通り：三浦 広志（南相馬市）、新妻 良平（広野町）

2) 中通り：菅野 正寿・まゆみ（二本松市）、大内 信一・督（二本松市）

3) 会津：浅見 彰宏（喜多方市）、渡部 よしの（喜多方市）

コメント： 澤登 早苗（恵泉女学園大学）  
高橋 巖（日本大学）  
原田 直樹（新潟大学）

16:40～18:40 パーチャル懇親会（16:30 開場）

【2 日目：12 月 6 日（日）】

10:00～11:00 全体セッション2（9:50 開場）

「アブラナ科植物はどのように栽培するのが良いのか？

：その生理、生態、品質や環境への影響を考える」

座 長： 成澤 才彦（茨城大学）

報 告： 渡辺 正夫（東北大学大学院）

○池田 成志（農研機構北農研）

岡崎 圭毅（農研機構中央農研）

関山 恭代（農研機構食品研究部門）

岡崎 和之（農研機構北農研）

三星 暢公（片倉コープアグリ・筑波総合研究所）

紀岡 雄三（片倉コープアグリ・筑波総合研究所）

藤澤 英司（片倉コープアグリ・筑波総合研究所）

野口 勝憲（片倉コープアグリ・筑波総合研究所）

釘宮 聡一（農研機構中央農研）

11:20～12:20 ポスター発表 コアタイム（11:10 開場）

13:30～15:00 総会（13:20 開場）

15:00 閉会挨拶

個別発表一覧 (A) 12月5日 A会場 9:40-11:10

時間	座長	発表者	所属	タイトル	番号
9:40 — 10:00	佐藤 忠恭 (東京農工大 学大学院)	本城 昇 <sup>1)</sup> 小野 雄希 <sup>2)</sup> ・ 中里 和浩 <sup>1)</sup>	<sup>1)</sup> 埼玉大学 <sup>2)</sup> 大阪大学	無意識・意識の世界と有機農業	A-1
		本城 昇 棚原 梓 中里 和浩	埼玉大学	民舞への取組と地域の文化の自給： 埼玉大学有機農業研究会の民舞への 取組	A-2
10:10 — 10:30	小林 保 (ひょうご の在来種保 存会)	丁 利憲 西川 芳昭	龍谷大学	韓国のタネ図書館にみるインフォー マルシードシステムの新しい展開	A-3
		西川 芳昭 <sup>1)</sup> 小川 智 <sup>2)</sup> 中村 哲也 <sup>3)</sup> 富吉 満之 <sup>4)</sup>	<sup>1)</sup> 龍谷大学 <sup>2)</sup> 秀明自然農法ネ ットワーク <sup>3)</sup> 共栄大学 <sup>4)</sup> 久留米大学	自然農法関係者の種子管理に関する 意識と知識：秀明自然農法を事例に	A-4
10:40 — 11:10	大木 茂 (麻布大学)	三宅 良尚 <sup>1)</sup> 内山 愉太 <sup>1)</sup> 佐藤 淳 <sup>2)</sup> 香坂 玲 <sup>1)</sup>	<sup>1)</sup> 名古屋大学 大学院 <sup>2)</sup> 金沢学院大学	国内 4 酒蔵に見る有機米の調達戦略 と有機日本酒の販売戦略	A-5
		久保田 裕子	NPO 日本有機農 業研究会	コロナ・パンデミックの有機農業「提 携」運動への影響：日本有機農業研 究会会員・簡易アンケート報告	A-6
		澤登 早苗	恵泉女学園大学	covid-19 禍による緊急事態宣言下 における有機園芸の教育実 践：超省力栽培とオンライン授業が もたらしたもの	A-7

## 個別発表一覧 (B)

12月6日 B会場

9:40-10:10

時間	座長	発表者	所属	タイトル	番号
9:40 - 10:10	伊藤 崇浩 (新潟食料 農業大学)	1) 渡邊 芳倫 1) 窪田 陽介 2) 庄司 浩一 1) 金子 信博	1) 福島大学 2) 神戸大学	不耕起に対応した管理起用小型播種機を用いたダイズ播種の検討 第2報	B-1
		高嶋 尚哉 福田 真丈 松浦 江里 野口 愛 成澤 才彦 小松崎 将一	茨城大学	不耕起・草生有機トマト栽培での堆肥と防蛾灯の効果	B-2
		福田 真丈 高嶋 尚哉 松浦 江里 野口 愛 成澤 才彦 小松崎 将一	茨城大学	ロボット芝刈機と根部エンドファイトを活用した不耕起・有機農法でのトマト栽培	B-3
10:20 - 11:00	渡邊 芳倫 (福島大学)	1) 松岡 拓志 2) 浅木 直美 2) 川村 拓 2) 佐藤 雄太 2) 小松崎将一	1) 茨城大学 2) 茨城大学大学院	有機水稲栽培での栽植密度とカバークロップが生育・収量に及ぼす影響	B-4
		1) 川村 拓 1) 浅木 直美 2) 松岡 拓志 1) 佐藤 雄太 1) 小松崎将一	1) 茨城大学 2) 茨城大学大学院	有機水稲栽培において栽植密度とカバークロップの有無が品質に与える影響	B-5
		佐藤 雄太 松岡 拓志 川村 拓 浅木 直美 小松崎 将一	茨城大学	有機水稲栽培での雑草防除に関する研究：大学農場と有機農家の差異	B-6
		岩石 真嗣	(公財) 自然農法 国際研究開発センター	自然農法的水田除草技術の耕うん方法提案とその根拠	B-7

ポスター発表 12月6日 11:20-12:20

番号	発表者	所属	タイトル
P-1	籠橋 有紀子 <sup>1)</sup> 石倉 早恵 <sup>1)</sup> 守谷 幸樹 <sup>1)</sup> 山本 朗 <sup>2)</sup> *	<sup>1)</sup> 島根県立大学 <sup>2)</sup> 島根県農業技術 センター *現所属 JAしまね	施肥体系の異なる有機米の物理特性の検討
P-2	生駒 忠大	京都大学大学院	途上国における有機農業の「普及」に関する方法 論の提示：フィリピン・アンティケ州での実践か ら
P-3	松浦 江里 野口 愛 成澤 才彦	茨城大学	DSE 接種に適したミニトマト用育苗培土の検討
P-4	<sup>1)</sup> 日鷹 一雅 <sup>1)</sup> 前田 萌 <sup>2)</sup> 稲飯 幸代 <sup>3)</sup> 飯山 直樹	<sup>1)</sup> 愛媛大学大学院 <sup>2)</sup> NPO 法人徳島保全 生物研究会 <sup>3)</sup> 徳島大学環境防 災研究センター	徳島県下の有機農業と慣行減農薬栽培における 水田生物群集の市民・小農参加型比較調査から： 農生物多様性とエコシカル認証をボトムアッ プに結び付ける日本のアグロエコロジーの新展 開